



小澤洋介、三戸素子、P ヤング友の会ニュース

2003年5月19日発行 No.38

心騒がす桜色の卯月も終わり、爽やかな風薫る若草色の皐月到来。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。4月13日には、モーツァルトピアノトリオ6曲連続演奏という、めったに聴けないほんとうに彼らしいコンサートがありました。皆様はいかがお感じになりましたでしょうか。

「その感想を是非に」とお願いした名古屋から遠来の岡部様、会員の水野様、そして、12日の鎌倉円覚寺での恒例のチャリティーと13日の両日聴いてくださった外谷様(残念ながら紙面の都合で部分的なのですが)、お三方のご寄稿をご紹介します。

サンクト・フローリアン三重奏団 「モーツァルトに寄せて」

岡部 靖史

演奏が始まり、チェロからは清流の水のごとく音が流れ、ピアノからは風に乗る桜の花びらのごとく音が流れ、ヴァイオリンからは炎のごとく音が湧き上がってきました。そして、自分の前に広がる風景は、新緑に囲まれた湖のほりにある桜の木から花びらが流れ、淡い光に満ちた春の高原のような世界へ飛んでしまいました。

ヴァイオリンの音、すごいインパクトがありました。

「私の音、聴いてみなさい、いいでしょ？」

思わず「はい」と素直に答えられる自分がありました。

ピアノの音、やさしい春風の香りがしました。

「くだらない事考えないで、みんなで楽しもう」

その通りだと、思いました。

チェロの音、いつものすばらしい低音が体をつき抜けます。

でも、彼が一番楽しんでいたように見えたのは、私だけでしょうか？

コンサートでは、音楽を充分楽しませてもらいました。

音を楽しませてくれる演奏家との出会いは、自分にとってかけがえのない事だと思います。サンクト・フローリアンに感謝。

円覚寺ピアノ三重奏の夕べ

モーツァルトピアノ三重奏曲全6曲演奏会

友の会会員 外谷千春

4月12日「神奈川骨髄移植を考える会」によるチャリティーコンサートがありました。

サンクト・フローリアン・トリオの皆さんのモーツァルト、西澤健一、ブラームスの豪華プログラムにうっとり。

一夜明けて13日。舞台は上野へ移り、素子さんは、昨日の若葉色のドレスから、モーツァルトの時代を思わせる金色の衣装で登場。前夜、ピアノ三重奏曲第三番を発表したばかりの西澤氏が、フィリップさんの隣に座っている姿はまるで「モーツァルトを訪ねて行った若きベートーヴェン」のよう！円覚寺で聴いた第四番が、東京文化会館ではまた別の音色に感じられ、第五番、第六番は、華やかでピアノコンチェルトを思わせるものがありました。モーツァルト尽くしでほろ酔い気分……。(後略)

私とサンクト・フローリアン

友の会会員 水野 春美

モーツァルトのピアノトリオについて「何か書くように」と言われましても、サンクト・フローリアンに出会うまでは、モーツァルトにすら特別惹かれることもなく、集中力を持って耳を傾けることもありませんでした。

私にとって“コト”の始まりは、船橋薬円台高校で行われた「骨髄バンクチャリティーコンサート」に誘われて……。

当日別の場所で会合の予定がありましたが、コンサートの後に駆けつければ間に合うと考えて、ホールに立ち寄りました。

ところが、開演が1時間も遅れて、前半だけで退席しなければと考えて、客席の隅で耳を傾けていますと、演奏が始まりバイオリンの響きにピアノが呼応するように歌い、頷くようにチェロが奏でられ…。「魂ゆさぶられ状態」となり、時間を忘れて大事な会合をすっぽかしてしまいました。寒い会場でしたが熱いものがこみあがってきて、言葉を失いました。私は感動すると言葉を失うタチなのです。

例えば、沈む夕日を眺めても三好達治ならば「泣きぬれる夕日に向ってりんりんと私の乳母車をおせ」と謳いあげ、夕日を眺めていない人をも切ない懐かしさの境地に誘い込む事が出来るのでしょうか、私などは「ワー！」とか「ウーン」と言うのみで、言葉を組み立てることは出来ないのです。

4月13日も演奏会の後は、久々深いことを語った後の満ち足りた気持ちに似たものを胸にして、連れとは無言を楽しみつつ、互いにポツリと「ああいうピアノもあるんだね…」「ほんとね…」などと他人が聞いたら何の事やらわからん「禅問答」のような会話を言葉少なに交わして名残の桜を楽しみました。

新規会員を随時募集しております。知人、ご友人の方々に友の会をぜひご紹介下さい。

年会費 1口 1,000円

(余剰金は、コンサート活動の支援となります。お一人様何口でも結構です。)

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名 友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング

新規入会ご希望の方はその旨お書添えの上直接年会費をお振込下さい。

ご継続の方は以下の口座でも結構です。(友の会事務局までご一報下さい。)

UFJ銀行 赤坂支店 (普) 5181925

アルコイリス基金 本野 義雄

この4月に終えたばかりのサンクト・フローリアン三重奏団の「モーツァルト全曲」の演奏会では、色々な方から私の衣装もお褒めいただきました。アイボリーと黄金色のタペストリーのような生地の、モーツァルト時代を思わせるドレスは、私にとって大切な思い出の衣装です。12年ほど前、スイスで今は亡き私の「ヨーロッパのお母さん」ルツィアさんが、チューリヒの個人のブティックで特別誂えして下さったもので、それを袖のところを

ちょっとつまんだり、神谷まさ子さんに髪型を考えて頂いたりして、今回のために準備しました。やはりコンサートで着る衣装は、私にとってプログラムを決定し、演奏のコンセプトを決める事の次ぐらいにコンサートのイメージを作る大事な要素です。

昨年4月のリサイタルで着たピンクの花の衣装は、ハンガリーの前衛デザイナーに注文したものでしたし、今度9月のリサイタルでは20・21世紀プログラムに合わせたイッセイ・ミヤケのドレスを、6月13日パッハ無伴奏パルティータの演奏会には、ライト設計の会場に合うよう抑えたながらも幾何模様を意識したドレスを予定しています。

普段でもヨーロッパやアメリカに行くと、必ず行きつけのお店へ行って街着は買わなくてもドレスだけは何着も買って帰ります。コンサート直前になって慌てて探し回るのはとてもストレスになるので、いつもある程度ストックがないと安心できません。はじめてのホールで演奏するときは、数着持って行ってステージの壁の色や雰囲気等でその場で最終決定することもあります。

まず腕が動きやすく演奏しやすいのが絶対で、昼か夜か、どんな季節か、大きな会場か小さな会場か、立って弾くのか座って弾くのか、そしてその時自分にとって似合うと思えるか...、こうしてみるとけっこう決定条件が厳しいのにびっくりします。

ドレスもコンサートの一部と大事に考えている私ですが、年2回の室内楽シリーズ「クライネス・コンツェルトハウス」だけは、周りの男性のタキシードや燕尾服と一緒に黒の上着とパンツです。ドレスを着たらどうかとご親切な忠告もたびたび頂のですが、やっぱりこのスタイルになってしまいます。

なぜこうになってしまうのか、どうもその根底にはヨーロッパ時代、ベルリン・フィルの一員として演奏した経験にあるようです。当時様々な室内オーケストラやザルツブルク・モーツァルト管弦楽団で演奏していて、何着もの黒いドレスを持っていました。伝統あるベルリン・フィルということで私も念入りに、シンプルで上等なドレスを選んでベルリンに持っていったのですが、いざコンサートでステージに上がってみると何となくそぐわないように感じました。周りを見渡してみると、当時まだ数人しかいなかった女性奏者たちのほとんどは、男性と同じような燕尾服をアレンジした衣装で、厳しい職場の中、対等に自分の持ち場を必死に果たしているのだという印象を受けました。コンサートを集団でもって世界の最先端で身体を張って演奏するという感覚があり、それは私にとっても他のオーケストラでは得られなかったものでした。

日本に帰ってきてからクライネス・コンツェルトハウスを結成して、年2回の定期公演をするようになり、7月20日で第15回目となるこのシリーズで、特別に意識はしなかったのですがその第1回目をはじめの時から、何となくこのスタイルを自分の衣装部屋で選び取ってしまったのです。クライネスでも地方や海外公演の時は女性はドレスを着ます。でもこの東京文化会館での定期公演の、入念に組んだプログラムから浮かび上がってくるテーマを音楽で表現するというのは、毎回は私にとって新しい試みです。他のメンバーと一体となって自分の存在を忘れ、ステージで力をふりしぼる、そのせいかこのコンサートではドレスが着られないでいます。前回の「友の会ニュース」で掲載された、音楽評論家の中村稔氏が言われた「クライネスイズム」が存在するならば、それがこうさせているのかも知れません。

華やかな衣装という要素も排除したコンサートのあり方は、お客様にとってどのように受け入れられるのか、私の中でもいろいろ考えるところです。でも「コンサートにとっての衣装とは...」などと難しく考えず、今までの自分の様々な経験からくる直感に、素直にしたがって選択していこうと思っています。

今後の主なコンサートとスケジュール

6月13日(金) 三戸素子 無伴奏ヴァイオリンの夕

～J.S.パッハ：無伴奏ヴァイオリンパルティータ 全三曲演奏会～

自由学園 明日館 (池袋西口より徒歩5分)

フランク・ライトによる重要文化財指定の歴史的建造物です。

7pm 開演 入場料 ¥4,000 (50席限定)

問：三戸素子 TEL.042-945-6326

Ex-# motoko@cool.interq.or.jp

6月15日(日) 小澤洋介ゲスト出演

～ピアニスト・野尻多佳子主宰「モンヴェールクラシックコンサート」～

レストラン モンヴェール 12:30pm 開演 (西武拝島・多摩湖線 萩山駅北口)

・ベートーヴェン：チェロソナタ 第1番 へ長調 作品5-1

・ベートーヴェン：ピアノソナタ 第2番 作品27-2 「月光」

・ベートーヴェン：チェロソナタ 第2番 ト短調 作品5-2

問：レストラン・モンヴェール TEL.042-392-3111

7月20日(日、祝) クライネス・コンツェルトハウスOp.15

夏の夜のセレナーデ 諧謔、酩酊、酒脱

- ・S. ヴァイナー：ハイドンの主題による変奏曲
- ・R. シュトラウス：ティル・オイレンシュピゲルの愉快ないたずら (ハーゼンエール編曲)
- ・G. ロッシーニ：チェロとコントラバスのための二重奏曲・C. ニールセン：軽快なセレナーデ
- ・L.v. ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op.20

ヴァイオリン：三戸素子 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介 / コントラバス：前田芳彰 / クラリネット：山根公男 / ファゴット：武井俊樹 / ホルン：藤田乙比古

東京文化会館 小ホール 7pm 開演 ¥4,000

問：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

クライネス・コンツェルトハウス事務局 FAX.042-945-6329

9月12日(金) 三戸素子ヴァイオリンリサイタル

～ヴァイオリン：三戸素子 & ピアノ：クリスティーナ・ヴェナー～

・B. バルトーク：ラブソディ 第2番

・C. アイヴス：ヴァイオリンソナタ 第2番

・西澤健一：無伴奏ヴァイオリンソナタ(委嘱作品、初演)

・S. プロコフィエフ：ヴァイオリンソナタ 第1番 へ短調 Op.80

東京文化会館 小ホール 7pm 開演 ¥5,000

問：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

10月4日(土) 小澤洋介チェロの世界 in 八ヶ岳

～八ヶ岳高原 こぶちざわ音楽祭2003 参加～

小澤洋介チェロの世界 in 八ヶ岳 フィリア美術館 新シリーズ

会場：フィリア美術館 7pm 開演

(JR中央線 小淵沢駅より徒歩20分、タクシー5分 tel.0551-36-422)

演奏曲目 パッハ：無伴奏チェロ組曲

西澤健一：ヴァイオリンとチェロの二重奏曲(現在委嘱中)

その他

問：「泉の会」 TEL.0551-38-0354(八ヶ岳パイ工房/三井千恵子)